

分担研究報告書

研究題目 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）の
現場適用による検証 - 検証 2 -

研究分担者 石川 麻衣（群馬大学保健学研究科・准教授）

研究要旨

2 か所の都道府県における人材育成研修の一環として、実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）を適用し、研修の企画、実施および評価を行った。

研修の企画においてガイドライン活用が有効であったが、具体的な方策を検討する段階に課題が伴った。研修の位置づけや研修全体の目的と結びついた行動の変化が多く確認され、研修全体の目標との一貫性・整合性を意識した研修企画が効果を高めることが示唆された。一方、多様な参加者に応じた到達度の絞り込みや時間の制約が課題となるため、参加者同士の高めあいや研修後の行動化の動機づけが重要となることが見いだされた。

A．研究目的

本研究の目的は、本研究班で作成中の「実務保健師の災害時研修ガイドライン案」を、協力の得られた県、政令市、保健所等の保健師人材育成担当者に活用してもらい、研修を企画・実施し、評価することを通して、研修ガイドラインの実用性及び効果を検証することである。

本報告では、2 都道府県（A 県・B 県）において、県単位で実施される人材育成を目的とした研修において、研修の一部として、「実務保健師の災害時研修ガイドライン案」を適用し、研修の企画・実施・評価を行った過程からガイドライン案を検証した結果を報告する。

B．研究方法

1．調査対象

大規模自然災害が想定されている都道府県 2 か所において、実務保健師を対象とする災害時研修の企画実施評価に携わる担当者保健師および研修ガイドライン案を用いて企画された災害時研修を受講した実務保健師。

なお、実務保健師とは、管理的立場及

び統括的立場の保健師を除く保健師を実務保健師とする。すなわち、新任期、中堅期にある保健師で、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ（厚生労働省、平成 28 年 3 月）」で示すキャリアレベル A-1～A-4 段階にある保健師とする。

2．研究方法

1）研修ガイドラインの活用の導入

研修ガイドライン案を活用して、実務保健師を対象とした災害時研修の企画・実施・評価の計画立案を行った。研修の計画立案は、ガイドラインで示された 4 つのステップを踏みながら、各自治体の人材育成担当者が行った。分担研究者が、研修ガイドライン案の使い方について必要に応じて助言を行った。

2）研修ガイドラインの実用性の検証の調査

研修前、研修後の 2 時点において、研修ガイドライン案の内容及びその実用性について、人材育成担当者に、個別のインタビューを行った。

研修前のインタビュー：研修ガイドラ

イン案を提示し説明した後に、研修ガイドライン案を用いて、研修目的、研修プログラム、研修評価の検討を行ってもらい、従前の研修の企画・実施・評価と比較して、役立つと思われる点、良いと思われる点、改善が必要と思われる点について、半構造的に意見を聴取した。

研修後のインタビュー：研修ガイドライン案を用いて、研修を実際に企画・実施・評価した経過を振り返ってもらい、また受講者から回収した質問紙調査の集計結果（研修直後及び研修 2 か月後）を見てもらったうえで、研修ガイドラインの実用性について、従前の研修の企画・実施・評価と比較して、役立った点、良いと思った点、改善が必要と思った点について、半構造的に意見を聴取した。

3) 研修ガイドラインの効果の検証調査

研修受講者を対象に、研修受講直後、および研修 2 か月後のそれぞれの時点において、研修受講の効果について、Kirkpatrick による 4 レベルの評価視点に基づき、感想・満足度、獲得した知識・技術・態度、実践に戻り行動化した内容、職場等の環境に変化を与えた内容の観点から、質問紙により回答を得た。

(倫理的配慮)

人材育成担当者と研修参加者それぞれに、研究の主旨および意義、プライバシーの保護、自由意思による研究参加、研究参加撤回の自由について口頭及び文書にて説明し、承諾を得た。

千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認(承認番号 31-55)を受け、実施した。

C. 研究結果

1. 対象の概要

研究対象は、A 県および B 県における人材育成研修である。A 県では、市町村及び保健所設置市において、保健師経験

8 年以上が経過した保健師 19 名を対象とした 2 日間の中堅保健師研修プログラムの一部として、2 時間の演習として実施した。

B 県は、毎年県内市町村及び保健所・県庁保健師全体を対象とした保健活動報告会と同日開催される半日(2 時間 30 分)の研修プログラムとして実施した。この研修は県内の市町村、保健所、県庁保健師全員が対象となっており、例年 50 名以上の参加が見込まれていた。

2. 研修ガイドラインの活用による研修の企画

研修企画の過程について、表 1 に示す。分担研究者より人材育成担当者に対しガイドラインについて説明を行った後、人材育成担当者が研修案を作成した。その過程で、適宜分担研究者が助言を行った。

両県とも、ニーズアセスメントの結果、超急性期のコンピテンシーに焦点化し、研修を企画することとなった。A 県では、ガイドライン説明時点では受講生のニーズが不明であったため、人材育成担当者が事前アンケートを行い、ニーズ把握を行ったうえで研修を企画した。

2. 研修ガイドラインの実用性の検証

研修前のインタビューでは、ガイドライン活用の利点として、「ガイドラインがあることで、災害のフェーズに合わせてどのような研修が必要かわかるため、災害支援に精通していない研修担当者でも研修を企画するのに役立つ(A 県)」こと、「県下全体の災害に関するニーズが捉えられていない状況でも、コンピテンシーリストがあることで、どのような能力を高めたいか考えられる(B 県)」「研修後の評価を考えるきっかけになる(A 県)」という意見が挙げられた。

一方、改善を要する点として、「フェーズごとの研修企画案の例示があると、

表 1 研修企画

企画の段階・内容		A 県研修会	B 県研修会
ステップ 1 ：研修のニ ーズアセス メント(研 修課題の明 確化)	実務保健師 の現状や問題 点 受講者の背 景 受講者のコ ンピテンシー 及び知識・技 術・態度の現 状並びに受講 者のニーズ	災害発生が少ない県であり、危機感がない。災害派 遣は県型保健所中心のため、市町村や保健所設置市の 保健師の経験が少ない。台風 19 号では被害の出た地 域もあり、対応した保健師もいるはずで、また、色々 と考える機会になったと思われる。 市町村及び保健所設置市において、保健師経験 8 年 以上が経過した保健師 19 名。 現状では不明点があるため、事前アンケートを実施 する。	災害支援した経験に伴い、災害時における対 応能力や実践能力に違いある。 新任期、中堅期、管理期等の経験年数や県、 中核市、市町村等の所属の違いなどにより様々 な立場の保健師の参加が見込まれる。 事前調査は実施していないが、初動体制の構築 や支援体制についてのニーズがある。
ステップ 2 ：研修の目 標の設定	焦点をあて るコンピテン シー及び知 識・技術・態 度 番号はガイ ドラインのコ ンピテンシー と対応	超急性期に焦点化する。 -1-(1) -1-(3) -3-(7) -4-(10)	超急性期に焦点化する。 -1>(4)>1)2)3)4) -4>(10) (11)(12)>1)2)3)4)5)6) -5>(13)(14)>1)2)3)4) 到達度として理解や態度を一定水準に引き上 げるものとする。 新任期から管理期までの幅広い経験の保健師 を対象とした研修とし、超急性期等において、 具体的な対応や行動をイメージしながら実践で できるようになることをねらいとする。
	期待する到 達度	目標 自然災害の超急性期(72 時間以内)における実務保 健師の役割を理解することができる 自然災害の超急性期における自分の役割を果たすた めに、平時から準備しておくこと、実施しておくこと を自覚することができる (日常業務を通じて保健師能力を高めておくことが、 健康危機発生時の役割遂行につながることを理解でき る。)	目標 1：自分の自治体に起こり得る大規模災害 を想定し、発災後の応援派遣の判断に活かすた めの迅速評価を実施する方法を説明することが できる。 (自然災害の超急性期(72 時間以内)における 実務保健師の役割を理解することができる) 目標 2：自然災害の超急性期において、実務保 健師として求められる役割を果たすために、平 時から準備しておくこと、実施しておくこと を自覚することができる。(そのひとつでも、これ から取り組むことができる)
	事前学習	各自治体の防災計画・マニュアルを読み、所属におけ る保健活動の体制と自分の役割を確認してくる。	各所属における地域防災計画や災害時保健活動 マニュアル等を確認しておく。
ステップ 3 ：研修プロ グラムの構 成及び方法 の検討	集合型対 面 学習 1)プログラ ム構成・内 容 2)演習のタ イプ 3)用いた事 例の概要	対面型 R-L-W 型で実施。(変則) 【プログラム構成・内容】 テーマ「災害対策における 中堅保健師の役割」 1. 保健師に求められる役割と能力:講義 14:10-14:20(10 分) 講義 2. 災害対策における中堅保健師の役割 14:20-14:35(15 分): 振り返り あなたはこれまでどんな災害対応を行いましたか? (特になければ、来年度の台風 19 号の時にどうし ていたか振り返る) あなたの自治体では、どんな災害が起こり、それ によってどんな健康課題が起こると思いますか? 防災計画・マニュアル等を読んで、気づいたこと、 考えたこと について、5 分間各自で振り返り、個人シート (レジュメ)に記入、何人かに発言してもらおう 14:35-14:55(25 分): 講義 健康危機とマネジメントの基本的な考え方 災害時保健医療対策の関連法と指揮命令系統 災害時サイクルに応じた保健医療福祉ニーズの変化 超急性期における統括保健師及び実務保健師の役割 二次健康被害の防止 災害時要配慮者・避難行動要支援者 14:55-15:35(40 分): グループワーク シナリオに沿って、以下 を考えてもらおう シナリオ: 台風 19 号が通過した翌日、保健センター に出勤すると、センター長から以下の指示があった。 「市町村内の河川が氾濫し、 地区の住民が 小 学校に避難している。災害対策本部にも詳細な情報が 届いていないので、どんな状況が見てきてほしい」 何をどのように見てきますか? 情報収集計画を立て てください。(情報収集項目・用物品・注意点・避難 所での具体的な行動計画) を踏まえて、今(平時)にやっておかなければな らないこと (知識・技術不足、自分自身の災害の備え) 15:35-16:10(35 分): 発表・まとめ 各グループ発表してもらい、以下の内容を助言・補足 説明する ・災害時の地域診断による情報活用 ・平時の実務保健師のコンピテンシー	【概要】 ・LWR 型による研修の実施。 ・レクチャーでは、災害対応の全般的な内容及 び支援体制の講義を想定(60 分程度を想定 進め方等の説明を含む。) ・グループワークでは、2 例を実施。(60 分程 度を想定 説明を含む) 1 例目は導入部として、「自身の地域における 起こりうる災害について(仮)。 2 例目は状況設定を行う。(平成 29 年度統括 保健師のための災害に係る研修会参考) ・リフレクションでは、受講者の振り返りを行 い、意見の共有を行う。(30 分程度を想定 アン ケート記入を含む) 演習時に各グループにファシリテーターは人 員の都合上、配置せずに複数のグループを分担 する。 テーマ「災害発生時における実務保健師の役割 と機能」応援保健師が来てくれるまでの時間を どう乗り切りますか? 【タイムスケジュール】 13:30-13:40(10) 挨拶及び説明 13:40-14:30(50) 講義 14:30-14:35(05) GW 説明 * 司会、発表、記録、 14:35-14:40(05) GW 「個人 W」 14:40-14:50(10) GW G 内で共有 14:50-14:55(05) GW 説明 14:55-15:00(05) GW 「個人 W」 15:00-15:20(20) GW 「GW」 15:20-15:30(10) 全体発表 * 数 G を対象 15:30-15:40(10) グループ内リフレクシ ョン・リフレクション・シート 15:40-15:45(05) 講評 15:50-15:55(05) アンケート記入、直後及 び県分 15:55-16:00(05) 2 か月後アンケート依頼

表1 研修企画つづき

企画の段階・内容		A 県研修会	B 県研修会
ステップ3 ：研修プログラムの構成及び方法の検討	事後の方向づけ	グループワーク について、3か月以内に実施してもらい、その成果をアンケートで答えるよう動機づける ・どうすればよいか分からなかったことを職場に持ち帰り、確認する 組織体制づくりにつなげる ・個人で備え・準備が必要なことを考え、実践してもらおう	・研修受講2か月後の評価アンケートの実施。
ステップ4 ：研修の評価計画の立案	受講者のコンピテンシーの到達度の評価の計画（理解、意識化、行動化の到達度） 研修の評価の計画（受講者の反応・満足度、修得した知識・技術・態度、実践に戻り行動化した内容、職場に影響を与えた内容に対する成果）	実施直後のアンケートと2か月後のFAX/メール調査を行う	実施直後のアンケートと約1か月後の調査を行う 【受講直後】研修ガイドライン42ページの「受講直後の成果の評価のための質問紙」を使用 【研修受講1か月後以降】研修ガイドライン43ページの「研修受講2か月以降の研修成果の評価のための質問紙」を使用

取り組みやすいと思った。(A県)「ワークの重要性は分かるが、具体的にどのようなワークをしたらいいか、またどのようなシナリオを作ったらいいか、わからない。(B県)」が挙げられた。

研修後のインタビューでは、役立った点として、「ガイドラインがあることで研修プログラムの内容がイメージしやすく、講師との打ち合わせするにあたり参考になる(A県)」が、また改善を要する点として「今回は研修の時間が決まっており、講義時間、グループワークの時間が短かったように感じた。1日かけて研修すると、もう少し深い内容の研修ができたと思う。(A県)」と、研修時間があらかじめ決まっていたことによる制約が挙げられた。

3. 研修ガイドラインの効果の検証

1) 研修直後の評価

A県人材育成研修における終了直後の調査は、受講者19人中、13人から回答が得られた。一方B県では、受講者64人中、54人からの回答が得られた。A県は全員実務保健師であり、B県は実務保健師38名、統括・管理期その他保健師が16名であった。

実務保健師の満足度(表2)は、大変良かった、良かったの肯定的評価が9割以上であった。

獲得した知識・技術・態度に関する回

答(表3、表4)は、「できた」「おおむねできた」の回答が多数であったが、「2)研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自信を得ることができましたか」は、A県B県ともに「あまりできなかった」の回答割合が高くなっていた。

表2 研修直後の評価：満足度

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	計
A県実務保健師	3	8	2	13
B県実務保健師	14	23	1	38
B県統括・管理期、その他保健師	9	7	0	16

2) 研修2か月後の評価

研修2か月後の評価について、A県14名、B県39名(実務保健師27名、統括・管理期その他保健師12名)の回答を得た(表5、表6)。

災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度について、変化なしと答えたのは、A県0名、B県5名であった。

A県では、【機器や必要物品等の再確認】に関する回答が多く、救急バッグの点検、見直しを実施する中で、定期的な見直しの必要性や、祭りの救護活動での経験を活かすなど、平時の活動を災害対策に活かす視点について、気づきを得ていた。

一方B県では、【保健師間、課内での情報共有や話し合いおよび勉強会の実施】

表3 研修直後の評価：獲得した知識・技術・態度（A県）

N=13

	できた	おおむね できた	あまり できなかった
1) 研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自覚を高めることができましたか？	8	4	1
2) 研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自信を得ることができましたか？	1	8	4
3) 研修参加を通して、災害時に実務保健師として求められる知識・技術・態度について知識を得ることができましたか？	2	10	1
4) 研修参加を通して、実務保健師としての役割遂行に対して、自身の問題点を明確にすることができましたか？	2	10	1
5) 上記の問題点の改善を図るために必要な知識・技術・態度について学ぶことができましたか？	1	12	0

表4 研修直後の評価：獲得した知識・技術・態度（B県）

N=54

	できた	おおむね できた	あまり できなかった
1) 研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自覚を高めることができましたか？	19	35	0
2) 研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自信を得ることができましたか？	2	29	23
3) 研修参加を通して、災害時に実務保健師として求められる知識・技術・態度について知識を得ることができましたか？	7	45	2
4) 研修参加を通して、実務保健師としての役割遂行に対して、自身の問題点を明確にすることができましたか？	8	44	2
5) 上記の問題点の改善を図るために必要な知識・技術・態度について学ぶことができましたか？	10	37	7

表5 研修2か月後の評価(A県)

災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度（A県実務保健師）
<p>【保健師や課の役割の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加以降、再度災害時における保健師の行動について確認をした。 ・自身が従事する可能性のある避難所、同じ避難所で活動予定の保健師を確認した。 ・避難所運営について職員との役割分担について考え、自分は保健師としてどんな役割を担えば良いか考えるようになった。 ・災害時の参集場所等を職場内で確認した。 <p>【地域防災計画・災害時マニュアル等の再確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時保健活動ガイドライン、災害時職員初動マニュアルの確認 ・時間がある時に災害マニュアルを多少確認するようになりました。 ・町の防災計画、マニュアルを改めて確認をした。 <p>【機器や必要物品等の再確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の防災計画について載っていない現場レベルでの物品準備などについて、意識が向上したように感じる。避難所に掲示するポスターなどについて、書籍などから情報収集を行った。 ・必要物品リストの見直しを考えた。 ・救急バッグの中身を再度確認し、使用期限が切れているものは処分・新しいものを購入した。不足しているもの・必要なものをリストに追加し、購入した。お祭りの救護の感想を再度確認し、ポケットアルコールやペンライトを新たに購入した。再度、救急バッグの中身を確認することで何が入っているか明確になり、必要時にどこに何が入っているかを改めて把握することができた。 ・課内の救急バッグの点検：救急バッグ内の必要物品の確認、消毒薬や塗布薬の使用期限の確認と、期限切れのもの購入、ゴム手袋、ビニール用品等の劣化の確認 ・備蓄品の内容や数量がどれくらいあるか、どこの施設に何が備蓄されているのか、普段から把握しておくよう頃掛けている。 ・緊急時に使用される物品が普段どこに保管されているか（すべてではないですが）保管場所を意識して確認するようになりました。 <p>【保健師間、課内での情報共有や話し合いおよび勉強会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の保健師人材育成の研修で「災害医療の基本」の講義があったため、職場内の打ち合わせで出席した人から復命してもらった。 <p>【庁内、他機関との関係づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションへの情報提供。 ・町保健師と連絡先を交換した <p>【住民および地域との関り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に地域のことを知ろうという意識が高まった。 ・人工呼吸器装着者の個別プランの見直し <p>【自身の備え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅の救急用品や非常食などの確認、準備、点検。 ・災害発生時に保健師業務に従事できるよう、家庭内の役割（子どもの預け先等）について家族で話し合った。 ・災害時に保健師活動業務が率先してできるよう、家庭においては、1歳の子どもの預け先や対応について、家族と話し合いました。

表 5 研修 2 か月後の評価(A 県)つづき

災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度 (B 県実務保健師)
<p>【災害を意識した日常業務への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の業務において、優先順位をつけて迅速に行動するよう心掛けるようになった。また、どんな問題が起きているのかを考え、どうすれば改善に至るのかね更なる改良はあるのか等を考えるようになりました。 <p>【他主催の研修会への主体的な参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内での保健師業務検討会に参加し、県の災害コーディネーター研修の報告を聞きました。 <p>【自己研鑽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害情報や感染症情報の動向を把握する習慣付けのため、毎日昼休みに新聞を読むようになった。 <p>【業務多忙によりなかなか行動に移せないが意識に変容あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃業務の中で実際に避難所で活動した保健師から話を聞いたりしました。その中で、避難所での統一の問診様式や行動マニュアル的なものは備えておく必要があると感じましたが、具体的な行動にはまだ至っていません。 <p>【今後取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きた場合の、組織としての対応や自分自身の動き方について事前にシミュレーションしておきたいと思いました。 ・災害に関する研修に積極的に参加し、緊急時に役立つスキルを習得しておきたいと思いました。
特に周囲の人々や組織に影響を及ぼしたこと (A 県実務保健師)
<p>【体制の整備等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応ではチームプレーとなるため、日頃からコミュニケーションを大切にしつつ、災害時の動きについて確認しあっておきたいと思いました。 ・救急バッグの担当であったが、中堅保健師に声をかけて一緒に行うことで情報共有が図れた。また、必要な物品を購入したいと事務職に相談し予算内の購入物品を考え購入することができた。 <p>【勉強会等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に中堅研修に参加した同僚と、災害時の保健活動マニュアル作成について意見交換をする機会があった。 <p>【機器や必要物品等の再確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課内の救急バッグの点検をした際に、アルコール製品の期限切れや、ゴム手袋やテープ等の貼付け部分の劣化などが多くあり、災害時などで必要となった時に十分に使用できない状況になってしまうことに気づいた。定期的な確認の必要性を再認識した。 <p>【他機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援初日、保健師 4 名で地元の保健所とスムーズに連携、対応できた。 <p>【マニュアル・各種名簿等の作成や更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時保健活動マニュアルの見直しを検討中 <p>【災害派遣時における活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに台風 19 号で避難所運営を経験しており、その経験から日頃より対応できるよう物品管理や災害時の行動について各保健師が意識するようになっていると思われる。 <p>【できなかった、特になし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人々に影響を及ぼすまではございませんでした。 ・所属内の保健師や看護師と災害時の話題を出して、話をした程度です。
その他 (A 県実務保健師)
<p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン完成時や案の段階でガイドラインを使用しての訓練をし、実際の動きとの整合性や時間経過等を確認する必要があると思いました。 ・災害発生を想定することで、やるべきことや備えておくこと等を実感として意識できました。特に、災害発生時に一人で行動するのではなく、必ずパートナーとなる職員や保健師と協働するという点が印象に残り、帰庁後に同じ避難所で従事する保健師を確認しました。 ・災害時に役割遂行できるよう、日頃からの準備が必要だと改めて気づきました。災害に対する自分の意識を高めることができました。ありがとうございました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、消毒等の必要物品を購入できなかった。常にストック状況を確認し、非常事態にも対応しておかなければならないと改めて感じた。 ・所属内の保健師や看護師と災害時の話題を出して、話をしたときに感じたことですが、災害の備えに関しては日々の業務に埋もれて後回しにされてしまいがちなので、業務の一環に位置付けられていれば一人ひとりの意識が変わってくると思いました。また、私の職場では近々避難訓練が予定されることになり、定期的を実施されれば意識の高まりにもつながるでしょうし、実際の災害発生に困惑することが少なくなると思うので、少し期待をしています。

表 6 研修 2 か月後の評価 (B 県)

災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度 (B 県実務保健師)
<p>【保健師や課の役割の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの災害に関する研修資料を見直し、管内の市との連携で自分がすることについて考えた。 ・災害時の対応 (フェーズ 0) について見直した。 <p>【地域防災計画・災害時マニュアル等の再確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時保健師活動マニュアルを確認した ・防災マニュアルを見直した。 ・災害時のマニュアルを確認し、平常時から災害時に備えて何をしておくべきか確認するようになった。 ・町の災害計画の見直しをした。 ・災害時保健活動体制チェックリストを再確認した。 ・町の防災計画がどこに保管していたかを確認し、災害救助のところをちらっと見直しました。 <p>【機器や必要物品等の再確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に担当では、改めて情報 (キーパーソン、非常時の連絡先、災害時の備蓄など) を確認した。 ・発災直後に動けるように、必要物品を少しずつ揃えるようになりました。 <p>【マニュアル・各種名簿等の作成や更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月(年度末)は毎年小児慢性特定疾病患者で、災害時要援助者避難支援プランの同意書に同意(属する町に個人情報を提供していただく)してくれている対象者一覧をまとめて各町に提出している(通常業務)。 <p>【保健師間、課内での情報共有や話し合いおよび勉強会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修時、グループワーク等で他市町村の意見を本町の朝礼で報告し、共有した。 ・まず、研修で学んだことを町へ持ち帰り皆に伝達しました。皆で今後の課題など考えるきっかけとなりました。 ・研修会からの帰庁後、課内で研修内容を口頭で共有したり、後日保健師間で研修資料を回覧するといったことはしましたが、それ以降は普段の業務に追われてしまい、災害時に関する役割遂行について考える時間をつくることや、行動・態度につなげることはできませんでした。 <p>【上司、統括保健師への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変有意義な研修だったので、管内でも同様の研修会が開催できたら良いと思い、課長に伝えた。 <p>【庁内、他機関との関係づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市の保健師との顔の見える関係でないといえども、リエゾン時に連携がしにくいと感じたため、若い保健師と話す場では、顔と名前を覚えるようにした。 ・町保健師と連絡先を交換した <p>【住民および地域との関り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の訪問においては、住民と災害に関する話が出た際に、近くに避難するのであればどのような方法・場所を選ぶか等を尋ね、指定避難場所以外に地域住民が避難する可能性のあるところを聞くことはありました。 <p>【災害派遣時における活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害は発生していないが、新型コロナが流行し、市民が危機的状況に陥った。そこで限られた資源がどのように使用されるのか、どのような対策が取られるのかを理解することができた。主となり行動することはできなかったが、普段から清潔への指導の必要性や体制づくりが重要であると感じた。 ・災害ではないが、健康危機管理として新型コロナウイルス感染症予防の対応をした。刻々と状況が変化し、迅速な対応と判断が求められる。また、自らの感染予防が必要となる。他の保健所管内にて保健活動の応援をし、日常活動とは異なる指揮命令権による組織的活動となった。応援保健師は、接触者の健康観察を担当した。同じ県の保健師なので指揮命令等がスムーズに出来た。応援保健師の心がけとして、下記の内容が必要と考えた。受援先に迷惑をかけないよう、主体的な活動することが大切。チーム活動の和を乱さないこと。必要物品等(マスク等)は、(現地にもあるが)、事前に用意し、持参する等。応援活動初日であったため、今後の応援に繋げるために、聞き取り内容等マニュアル化しておくことが必要。今後の応援スケジュールと一緒に考えておく等。 ・新型コロナ対応の中で、保健師業務実施の見直しを皆で行いました。その時、通常モードからの切り替え、何を優先すべきかを判断していく事を経験することでできました。(災害時とは少し違いますが・・・) <p>【自身の備え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、県の職員官舎に住んでいるので、同じく官舎に住んでいる職員の把握・避難場所の再確認はしたが、それ以上に何か行動には起こせていない。 ・保健師業務としての災害対策の行動は主だっけすすめられていないが、いざというときに自分の生活は自分で賄えないと、保健師活動自体ができなくなるかもしれないと思い、家の備蓄等を見直した。 <p>【災害を意識した日常業務への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問等で地域を出る時に、ハザードマップやどこに避難所があるか等を意識して確認するようになった。 ・普段から地域の情報をしっかりと把握すること、もし災害が起こった時にどのような課題があるのか等を改めて考えるきっかけとなりました。また、地域特性も意識しながら、地域住民のニーズを把握し、保健師として何をすべきかを常に意識した行動をするように心がけています。 ・研修に参加して、普段から備えておかないといけない保健師としての資質や技術をしっかりと磨いていかないといけないと思って日常業務に取り組みました。 ・日常の業務(例えば訪問時の道の状況や居住環境)において災害発生時の状況をイメージすることで、より具体的な対策について考えながら行動するようになりました。 ・訪問や事業で出かけるときに、避難所の場所等確認するようになった。 <p>【業務多忙によりなかなか行動に移せないが意識に変容あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容のなかで、被災時の地域診断を円滑に行うためには、平時の地域診断や必要性が想定される情報の可視化(スタッフ間共有)が重要だと感じましたが、今のところ意識的な実行には至っていません。 ・災害時の対応マニュアルを事前にきちんと読んで把握しておこうという意識が強くなりました。 ・自分の町でももし災害が発生したらどのように動かなければならないか、また状況判断する力も必要となってくることを学んだので自己の意識の持ち方が少し変わったと思う。 <p>【今後取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が関わる人の中で、災害時要配慮者がどのくらいいるのか把握しなければならぬと思った。 ・要援護者の方が災害時にどう行動したらいいのか、話し合いを詰めていかなければならぬことを学びました。

表 6 研修 2 か月後の評価(B 県)つづき

特に周囲の人々や組織に影響を及ぼしたこと (B 県実務保健師)
<p>【体制の整備等に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会后、保健所の統括保健師と中堅期以上の保健師で来年度の保健師研修計画には、保健所における災害時の受援体制の整備を協議していく必要があることの話合いがあった。 <p>【勉強会等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内の市町統括保健師会議で支援活動に必要な物品の例等について情報共有した。 復命書を作成し、保健師全体に、研修内容を情報提供し、市内保健師の人材育成研修の中での災害研修においても、資料の一部を参考にいただいた。 <p>【住民および地域との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問時は災害時どのような備えや連絡体制をとっているか、訪問対象者に聞くことで、ひとりひとりに自身の災害対策について意識してもらうように心がけています。 <p>【他機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 応援初日、保健師 4 名で応援した。キャリアラダー A-4、5 と経験豊かな保健師ばかりで現地の保健所とスムーズに連携、対応できた。 <p>【保健師の災害に対する意識の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆で共有することで、皆で今後の課題など考えていきかけとなりました。地区診断は、どの活動にも必要になってくることが再認識できました。 <p>【できなかった、特になし】</p> <ul style="list-style-type: none"> 影響を及ぼしたというところはないかと思いますが、これからも保健師間だけでなく、他課の職員とも連携し、もしもの時に備えた行動をとれるようにしていきたいと思います。 当保健所では、毎年、管内 3 病院及び市町と充実した災害訓練をしている。本研修の影響力は、ほとんどなく、今後は、保健所長を中心とした災害対策でよいと考える。 数年前の大水害の後、毎年定期的に災害に備えた研修を実施しており、取組も少しずつ積み重ねているため、今回の研修を受けた後で、特段行動におこすことはありませんでした。
その他 (B 県実務保健師)
<p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> この 2 か月間では特にありませんでしたが、キャリアラダーの中にも健康危機管理に関する能力評価があるため、日ごろから意識するとともに、防災訓練や研修等で災害が起きた際の行動をイメージできるようにしたいと思います。 外部講師は、物足りなさを感じる。 日々、業務の行う上で、備えておかないといけないことがたくさんあると思いました。日々の業務に一生懸命取り組みながら、災害時の備えについても準備していかないと行けないと意識するようになりました。火事場の馬鹿力はないと講師の先生がおっしゃっていたのが大変印象に残っています。 予測できることや予測できないことを踏まえた災害における研修会は、他市町村の状況共有をすることで、とても良い機会になりました。 災害時の対応と日々の保健師活動を別々に考えてはいけないと感じた。アセスメント力、ニーズアセスメントができるように日々の活動を行っていきたい。 <p>【研修への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修時間が短かった。フェーズ毎に焦点をあてて、もう少し丁寧に学びたかった。 今後も受援について学びたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修で気づいたことについて、次につなげていないと感じている。
災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度 (B 県統括・管理期保健師)
<p>【保健師間、課内、庁内での情報共有や話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師の定例会を 2 月に実施し、災害時の保健師の役割について話しあった。保健師として不安に思うことや分からないことを出し合って、来年度の定例会でも継続して話しあうことになった。 先日、研修時の演習を保健師一同で行い、以下について今後の方向性を確認しました：平常時に出来る事を確認し、一つずつ準備していく。どの保健師でも対応できるよう、皆と一緒に訓練や演習を繰り返し行う。町の災害保健活動マニュアルの作成に向けて毎月打合せの時間を持つ。 研修を自分だけのものにせず、職場の保健師連絡会議で研修の伝達を行い、災害時における保健師の役割について各保健師に考えてもらった。また、保健所としての受援体制について、来年度以降に管内市町とも検討して行く方向性で意思統一した。 <p>【地域防災計画や体制、マニュアルの整備、および物品の確認・準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害に備えて物品備蓄の必要性も改めて実感している。 指令系統がバラバラだと混乱し、報告もばらつくため情報集約する者が集約できない。 <p>【統括・管理者としての意識改革と全体への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間管理期であり、今まで統括を頼っていた。研修を受けた後にコロナウイルス関連の業務が増え指揮指令系統を意識するようになった。 今後起こりうる災害に備えて保健師としての災害対応力が求められることを改めて再確認し、平時の業務の中で保健師間で話し合いの機会を持っていきたいと思っています。 他課の職員の考えや、行動に対して意識するようになった。 平常時、出来ていないことは災害時に出来ないということを認識したので、何かあるたびに災害時はどうかということを意識し考えるようになった。

表 6 研修 2 か月後の評価(B 県)つづき

災害時における役割遂行に関連して意識した行動・態度 (B 県統括・管理期保健師)
<p>【自己啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から災害対策に興味があり、さまざまな研修などを受けていたので、大きな変化はない。ただ、2月に開催された庁内の災害机上訓練の内容を参加した課長から教えてもらい実際のイメージを再確認したり、災害時の停電を想定した研修の受講をするなど、より実践に近いイメージをもって災害対策にあたるように、学びは深めている。 ・災害というか、新型コロナウイルスの関係で、平時の時の活動以外の活動もしくは事業の変更等がありました。そのため、休日の市民相談の対応としての執務等があり、そのような中で、災害時の行動について考える機会となりました。 <p>【業務多忙によりなかなか行動に移せないが意識に変容あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月からの職員体制における災害時の対応についての配置等検討していく必要を感じていますが、行動できてはいません。 ・平時から災害時をイメージして想定しておくことが大切と実感。" ・災害時はどの保健師が何人参集できるかわからないので、自分事としてとらえて、災害に関する研修にできるだけ参加し自分の役割をイメージできるようにしたい。 ・具体的な行動や態度に結びつけることができませんでした。
特に周囲の人々や組織に影響を及ぼしたこと (B 県統括・管理期保健師)
<p>【保健師の災害に対する意識や行動の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え準備の必要性をまわりも理解してくれるようになった。 ・感染拡大を防ぐという観点から、乳幼児健診や各場面において共通した認識をもって業務に取り組んでいました。 ・気づいたときにスタッフ間で話すようになった。 <p>【訓練・研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所管内の市町村が集まり、災害に備えた(救護所設営) <p>【情報共有と話し合いによる災害への備え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から災害時保健師活動についてはまとめていきたい希望が所内の保健師間にあり、その目標が明確化してきた。また、管内の自治体保健師にも上記の内容を話したところ賛同してくれた。 ・記録様式等統一したものを作成していく動きになっています。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統括ではないが、まとめる立場の理解が得られた。 ・常に意識しての行動や対策を講じないと、と思いつつ実践できていません。

や【災害を意識した日常業務への取り組み】など、職場内へ伝達し、組織的な取り組みにつなげるとともに、自己の日常業務の中に災害の視点を取り入れ、強化していた。また、両県とも、新型コロナウイルス感染症の対策を【災害派遣時における活用】の機会として、研修で学んだ内容と結び付けて活動に取り組んでいた。

D. 考察

1. 都道府県単位の人材育成研修における研修ガイドライン活用の有効性と課題

本報告において対象とした研修は、双方とも、研修全体の目的が災害対応に限らない県内保健師の資質向上にあり、その一環としてトピックス的に取り入れる形で実施された。そのため、研修全体の目的達成と災害研修の一貫性を意識した企画が必要であった。具体的には、災害対応経験や学習ニーズに差があったり、研修企画者がニーズを十分に把握できて

いない状態で研修企画を行う必要があった。このような場合でも、研修受講予定者に対するニーズ調査にコンピテンシーを活用したり、コンピテンシーを概観する中で特に強化したいコンピテンシーの分析が可能になったりするなど、研修の企画にガイドライン活用が有効であった。

研修受講後の効果については、両研修とも、研修全体の目的が反映するかたちで知識・技術・態度、行動化、職場環境の変化のそれぞれに効果が見られていたと思われる。

A 県では、機器や救急物品の確認や事故の備えにおいて複数の研修参加者の行動化が確認された。これは、中堅保健師が自己の役割を、災害発生時速やかに実務対応に従事することとして認識した結果であり、中堅保健師研修全体を通じて、自己の職場内での役割を振り返ったことが影響していると思われる。一方 B 県では、県内各地から様々な所属、職

位、地域の保健師が集合するという研修の特徴があった。そのため、交流や情報交換により様々な刺激を受け、それを職場に持ち帰り自組織や自己の活動に活かすという使命が強く研修参加者に意識されていたと思われる。また、同管内の保健所・市町村が同じ研修を受けることで災害対策の必要性を共通理解とすることができ、そこから研修会や勉強会など、協働活動の実施につながっていた。

このように、研修全体の目的と結びついた行動の変化がより多く確認されたことから、研修の内容だけでなく、研修の位置付けも受講後の効果に影響することに留意し、研修全体の目標との一貫性・整合性を意識して研修を企画することが効果的な研修実施につながると思われる。

ガイドラインの課題については、高めたいコンピテンシーを明確化できたとしても、そのコンピテンシーを高めるための具体的な方策を検討するのが困難である点が挙げられる。本研究の人材育成担当者は、計画立案時に、教材開発や既存の教材の活用、またグループワーク技法について、知識の不足や困難を感じていた。この課題への対応策として、教材集の作成や手法の例示を検討する必要がある。また、研修企画者が、大学や研究機関等を活用し、研修を共同で企画実施する体制づくりも重要と考える。

また、今回のように研修対象者があらかじめ決定している災害研修の課題として、参加者の知識や災害対応経験、また所属組織の災害対策の取り組みに差があるため、到達度の絞り込みが困難になるという点が挙げられる。これには、本研修が人材育成研修の一部という位置付けであるため、時間の制約があることも影響していた。特にB県のように、所属・職位・地域の異なる参加者が集合する研修の場合、経験豊富な参加者の知識や軽減を活かし、参加同士が互いに高めあうことを目的とすることや、研修時間内の

みでの知識・技術の態度の向上を狙うのではなく、参加者がそれぞれの状況に応じた今後の行動目標を見出せるようにすることが重要だと考える。そして、そのような研修の意図を参加者が理解して研修に参加できるような動機づけが重要になると考える。

E．結論

都道府県の人材育成研修の一環として行われる災害研修において、研修ガイドラインを適用し、研修の企画・実施・評価を行った。

研修の企画においてガイドラインを活用しコンピテンシーを明確化することが有効であったが、コンピテンシーを高めるための具体的な方策を検討する段階では困難が伴ったこの課題への対応策として、教材集の作成や手法の例示を検討する必要がある。

実施した研修の効果からは、研修の位置づけや研修全体の目的と結びついた行動の変化がより多く確認された。都道府県単位の人材育成研修の一環として行う際には、研修全体の目標との一貫性・整合性を意識して研修を企画することが効果的な研修実施につながる。一方、多様な参加者に応じた到達度の絞り込みや時間の制約が課題となるため、参加者同士の高めあいや研修後の行動化の動機づけが重要となることを見いだされた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし